

情報教育部門活動報告

佐藤 正英
松本 豊司
森 祥寛

1. はじめに

情報教育部門は「情報教育の企画」、「ICT 活用教育とその支援」、「情報の資格認定の企画・支援」などの活動をしています。今年度は部門の人員も入れ替わり、それに伴い新しい取り組みも開始されました。以下では、これらについて、ご報告いたします。

2. 情報教育の企画

平成 18 年度から開始された情報処理基礎も、同じ年度から開始されたノート PC の必携化とともに、今年で 4 年目となりました。また、この間に FD・ICT 教育推進室とともに進めてきたアカンサスポータルを整備もかなり進みました。これまで取り組んできた情報教育の導入期が終了し、新しい展開をする時期になったと言えるでしょう。これまでの取り組みを総括し、新たな段階に入る次年度以降の取り組みに役立てるためにアンケート調査を行いました。

■情報処理基礎に関するアンケートの実施

みなさんご承知の通り、情報処理基礎の初めての 4 回は、総合メディア基盤センターの教員が総出勤で行っています。この 4 回では、「情報倫理とネットワークセキュリティ」として、非常に簡単な内容ですが、情報モラルや金沢大学でのインターネットの使用のルールなどについて教えてきました。

過去 4 年間、授業の開始時と 4 回目が終了した時に同じ内容のアンケートを行っていました。これらの 4 年間の傾向を見てみると、情報処理基礎の内容は簡単であるという学生が多い一方で、高校でほとんど習ってこなかった学生もいるようです。また、学生の勘違いなのかもしれませんが、高校で必修化されている教科「情報」を習って来ていない学生も無視できない程度にいました。

インターネットの活用が一般化している一方で、高等学校までのように教員が何でも面倒見てくれるわけなく、自分の責任で様々な問題に対処しなくてはならない現状を考えると、入学時に短時間で良いので最小限のことだけはきちんと学習する必要性は今後も当分続くのではないかと思います。アンケートの結果を見ながら、学習内容についても見直すつもりです。

■必携 PC に関するアンケートの実施

10 月に必携ノート PC や情報教育に関するアンケートを教員と学生の両方に行いました。アンケート結果からは、ほとんどの学生が住まいにインターネット環境が整備され、ほぼ毎日 1～2 時間は必携 PC を活用していることなどもわかりました。また、大学からの情報の手段としては、紙による掲示よりもアカンサスポータルが多くなっていることもわかりました。

ノート PC を活用する授業や PC の使い方の授業については様々な考えがありました。もう十分であると感じている学生がいる一方で、逆に増やしてほしいと思う学生もおり、情報処理基礎のような必修科目に加えて、学びたい学生が選択できる授業も整備する必要があることもわかりました。これらを考慮し、共通教育の情報グループと連携を取りつつ、次年度より新たな科目の立ち上げとして検討しています。

3. ICT 活用教育

情報教育の企画に加えて様々な取り組みもしております。スペースの関係上詳細には触れられませんが、以下で 2, 3 の取り組みをご紹介します。

■緊急連絡システムの構築

アカンサスポータルが様々な連絡に活用されてきておりますが、FD・ICT 教育推進室や当センターの情報基盤部門と連携して、緊急時の連絡のためのシステムを構築しています。今後、運用のルールについては、大学のしかるべきところで議論され、活用されることを期待しています。

■研究活動

情報教育部門では上記のような業務のみではなく研究活動もしています。個々の教員の研究に加えて、ミッションと関連した研究にも取り組んでおり、競争的資金の獲得も積極的に行っています。これらの詳細については部門の Web ページにまとめてあります。どうぞ以下の URL もご覧ください。

<http://www.imc.kanazawa-u.ac.jp/info/research/literacy>